

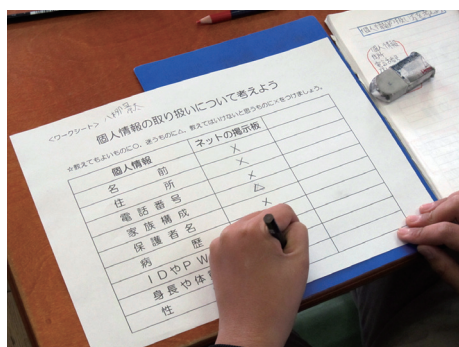
授業実践に取り組んだ先生方の声

授業のねらい

第5回の学習会に参加し、メディアとのつきあい方を教えることに興味をもちました。同時に、今までの自分の指導は十分でなかったと反省しました。そこで、5年生の社会科「暮らしを支える情報」と関連させて「緊急時の個人情報の取り扱い」の授業を行うことにしました。

指導案には、ねらいや発問や予想される反応が書いてあるので、授業のイメージをもつことができました。また、ワークシートや東日本大震災の時に提供された動画も活用できたので、安心して授業に臨むことができました。

授業当日の感想を一言で表すのなら「とにかく楽しかった！」です。それは、子どもの考えがみるみる変わっていくのが分かったからです。授業前の子どもたちは「個人情報を絶対に教えてはいけない。」と信じていました。ところが、非常時にインターネットに発信された氏名・年齢・住所・電話番号が載っている名簿の存在を知ったり、名前や年齢や様子を書いたボードを持って語りかけている人たちの映像を見たりすることで、「状況によって個人情報を教えた方が良い場合がある。」という考えに変わりました。



話し合いが盛り上がったのは、非常時にどの個人情報を教えた方が良いのかということでした。「病歴」に対する考えは人それぞれで、病歴まで教える必要がない、命に関わることだから教えた方がいい、場合によって教えてもいいかどうかは変わるなど、意見が分かれました。この話し合いを通して、個人情報を教えるのか、教えないのかは人によって異なることに気付きました。非常時の個人情報の取り扱いを考えることで、何も無い平和な時の個人情報の扱いについても深く考えさせることができましたと思います。

この授業は、私にとってとても楽しい授業でした。そして、何より、非常時を意識することで平常時に教えておいた方が良いものがあると分かったことが自分自身の大きな学びとなりました。

静岡県富士市立大淵第一小学校 山本 夏海

新聞のいろいろな欄の役割

社会科で情報産業について学習した後に「新聞のいろいろな欄の役割」の授業実践を行いました。子どもたちがよく知っている、ニュース欄、スポーツ欄、テレビ欄の役割について考える活動では、自分の生活を振り返り、どんな時にどの欄を読むのかを思い出しながら、3つの欄の役割を考えることができました。その後、東日本大震災で被災した人を励ます投書欄や赤ちゃんの紹介欄の役割を考えた時、子どもたちの表情が変わりました。新聞には自分たちになじみの深い欄の他にも様々な記事があり、それぞれが伝えるべき内容や役割をもっていることに気付いたようでした。



最後に実際の新聞を見て、他にどんな欄があるか調べる活動では、友達と一緒に、ラテ欄やニュースではない特集のコーナーなどを見付け、その役割について考えていました。この授業を通して、メディアとしての新聞のもつ役割について、見方を広げることができました。

富山県富山市立東部小学校 渡辺 純恵

テレビとインターネット

国語科でメディアについての説明文を学習した後に「テレビとインターネット」の授業実践を行いました。ニュースの情報を得る時のテレビとインターネットの特性について二択問題で考えていく活動では、子どもたちは自分の経験を振り返ったり、学習したことを思い出したりしながら特性を比べることができました。それぞれの特性を整理したことで、組み合わせて使うことの大切さに気付いたようです。また、災害時のテレビやインターネット画面を提示することで、災害に関わる多くの情報が、どんどん発信され続けたことに改めて気付いていました。何気なく見ていたテレビ



やインターネットのニュースですが、災害時には人々の安全を守るためにより多くの情報をより積極的に送っていることが分かったようです。この授業を通して、テレビやインターネットといった身近なメディアを改めて見直させることができました。

群馬県前橋市立荒牧小学校 笠原 晶子